

# 東北地区スバルグループ 環境経営レポート 2023

対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日

発行日：2024年8月22日

〈 統括会社 〉 宮城スバル自動車株式会社

〈 事業会社 〉 青森スバル自動車株式会社  
岩手スバル自動車株式会社  
秋田スバル自動車株式会社  
山形スバル株式会社  
福島スバル自動車株式会社



## 目 次

1. 組織の概要
  - (1) 統括会社
  - (2) 事業会社 5 社
2. 事業所一覧／対象範囲
  - (1) 環境事業所一覧
  - (2) 対象範囲
3. EA21 推進組織図
4. 環境経営方針
5. 環境経営目標及び計画内容
  - (1) 中期計画
6. 2023 年度の取り組み
  - (1) CO<sub>2</sub>排出量の削減
  - (2) 電気使用量の削減
  - (3) 燃料使用量の削減
  - (4) 紙・水使用量の削減
  - (5) 産業廃棄物排出量の削減
  - (6) 化学物質使用量の削減
  - (7) 環境負荷低減に資する商品販売促進
7. SUBARU の価値創造の歩み
8. CSR
  - (1) 持続可能な企業を目指して
  - (2) 認証取得
  - (3) 環境関連法規等の遵守状況の確認、訴訟の有無
  - (4) コンプライアンス関連
9. 代表者による全体評価

# 1. 組織の概要 (※2024年4月1日 時点)



## 東北地区スバルグループの概要

東北地区スバルグループ（以下、「当グループ」）に関わる全ての人の心や人生を豊かにしたいと考えており、「笑顔をつくる会社」をありたい姿として掲げています。航空機メーカーのDNAを持つ当社は「人を中心としたモノづくり」の考えのもと、SUBARUらしい商品を通して「安心と楽しさ」を提供し、それに共感してくださるお客様の様々な期待にお応えし続けることでお客様との関係を育てていきます。この実現に向けて、「個の成長」を促し変革をリードする人財とそれを支えるすべての従業員の力を結集し「組織の成長」へとつなげていきます。そして、当グループの持続的な成長と愉しく持続可能な社会の実現の両立を図っていきます。

### (1) 統括会社

会社名	宮城スバル自動車株式会社	
所在地	〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区日の出町 1-5-26 TEL 022-235-9113 / FAX 022-235-9104 URL <a href="https://www.miyagi-subaru.co.jp">https://www.miyagi-subaru.co.jp</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 小笠原 巧	
環境保全関係責任者	環境保全担当部署：統括管理本部 総務部 環境管理責任者：総務部 部長 滝田 吉英 環境監査責任者：監査部 部長 芳賀 章嘉 EA21 推進事務局：総務部 総務人事課 ESG 課長 熊谷 康治	
事業内容	(1) 自動車、自動車部品類、油類、機械器具工具類、計器類の売買 (2) 上記(1)の加工並びに修理 (3) 損害保険代理店及び自動車損害賠償責任保険代理店業並びに生命保険募集業 (4) 自動車のリース業 (5) 株式会社 SUBARU の販売特約店への経営支援、助言、コンサルティング (6) 経理、総務、人事その他管理業務の受託	
事業規模 (6社合計)	(1) 年間売上高 40,554 百万円 (2023 年度) (2) 新車販売台数 8,071 台 (2023 年度) (3) 中古車販売台数 6,367 台 (2023 年度) (4) 従業員数 (派遣、パート含む) 1,044 人 (2024 年 4 月 1 日 時点) (5) 店舗数 新車 (中古車・钣金塗装 併設含む) 46 店 中古車 2 店 钣金塗装工場 1 店 合計 49 店 (2024 年 4 月 1 日 時点)	

**(2) 事業会社 5 社 (※事業内容は統括会社事業内容(1)~(4)に同じ) (※2024 年 4 月 1 日 時点)**

会社名	<b>青森スバル自動車株式会社</b>	
所在地	〒030-0921 青森県青森市原別 6-10-1 TEL 017-736-3122 / FAX 017-736-8083 URL <a href="https://www.aomori-subaru.co.jp">https://www.aomori-subaru.co.jp</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 伊藤 信介	
環境保全関係責任者	推進責任者 代表取締役社長 伊藤 信介 実行責任者 営業支援部 部長 中村 啓四郎	

会社名	<b>岩手スバル自動車株式会社</b>	
所在地	〒020-0125 岩手県盛岡市上堂 3-7-10 TEL 019-641-1313 / FAX 019-641-1302 URL <a href="https://www.iwate-subaru.com">https://www.iwate-subaru.com</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 間野 英雄	
環境保全関係責任者	推進責任者 代表取締役社長 間野 英雄 実行責任者 営業支援部 副部長 角舘 保	

会社名	<b>秋田スバル自動車株式会社</b>	
所在地	〒011-0901 秋田県秋田市寺内字三千刈 315-1 TEL 018-823-7112 / FAX 018-823-7118 URL <a href="https://www.akita-subaru.co.jp">https://www.akita-subaru.co.jp</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 伊藤 信介	
環境保全関係責任者	推進責任者 代表取締役社長 伊藤 信介 実行責任者 営業支援部 部長 土田 俊則	

会社名	<b>山形スバル株式会社</b>	
所在地	〒990-2432 山形県山形市荒楯町 2-1-88 TEL 023-624-1772 / FAX 023-632-4774 URL <a href="https://www.yamagatasubaru.com">https://www.yamagatasubaru.com</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 岡崎 浩一	
環境保全関係責任者	推進責任者 代表取締役社長 岡崎 浩一 実行責任者 営業支援部 部長 佐藤 元泰	

会社名	<b>福島スバル自動車株式会社</b>	
所在地	〒963-0115 福島県郡山市南 1 丁目 70 TEL 024-945-1341 / FAX 024-945-9322 URL <a href="https://www.fukushima-subaru.co.jp">https://www.fukushima-subaru.co.jp</a>	
代表者氏名	代表取締役社長 岡崎 浩一	
環境保全関係責任者	推進責任者 代表取締役社長 岡崎 浩一 実行責任者 営業支援部 部長 本田 喜彦	

## 2. 事業所一覧・対象範囲



### (1) 環境事業所一覧 (※2024年4月1日時点)

会社	区分	事業所名	住所	電話番号	組織区分	
宮城スバル自動車株式会社	本社	1	本社・日の出店・日の出BPセンター	仙台市宮城野区日の出町1-5-26	022-235-9113	D
		2	BEST SHOP栗生・G-PARK栗生	仙台市青葉区栗生6-1-2	022-391-0833	C
		3	太白山田店	仙台市太白区山田新町88	022-738-9907	C
		4	泉店	仙台市泉区天神沢1-3-24	022-373-6113	C
		5	長命ヶ丘店	仙台市泉区長命ヶ丘3-32-11	022-378-8321	C
		6	多賀城店(※名称変更:2024年4月~)	多賀城市八幡1-6-38	022-367-1605	C
		7	岩沼店	岩沼市桜2-10-31	0223-24-1173	C
		8	大河原店	柴田郡大河原町字新南60-1	0224-53-4451	C
		9	石巻店(※店舗閉鎖:~2023年9月まで)	石巻市門脇字一番谷地1	0225-22-6303	C
		9	石巻店・カースポット石巻(※移転:名称変更:2023年10月~)	石巻市門脇字一番谷地44-5	0225-22-6303	C
		10	古川店	大崎市古川休塚字要書前28-1	0229-28-1991	C
		11	気仙沼店	気仙沼市上田中2-1-4	0226-22-9263	C
12	カースポット石巻(※店舗閉鎖:~2023年9月まで)	石巻市善平一丁目1番地5	0225-22-7511	B		
青森スバル自動車株式会社	本社	1	本社・青森原別店・BPセンター	青森市原別6丁目10-1	017-736-3121	D
		2	青森三内店	青森市大字三内字福元79-6	017-781-6081	C
		3	八戸長苗代店	八戸市大字長苗代字前田50-1	0178-28-4091	C
		4	八戸類家店(※名称変更:2024年4月~)	八戸市諏訪3丁目13-5	0178-47-9228	C
		5	弘前城東店	弘前市大字早稲田3丁目3-8	0172-28-7366	C
		6	むつ店	むつ市赤川町22-7	0175-22-8370	C
		7	カースポット青森石江	青森市大字石江字三好43-6	017-766-7901	B
岩手スバル自動車株式会社	本社	1	本社・盛岡上堂店・カースポット盛岡上堂	盛岡市上堂3丁目7-10	019-641-1313	C
		2	盛岡都南店	盛岡市東見前5-90-1	019-638-9825	C
		3	花巻空港店	花巻市二枚橋第6地割530	0198-26-0333	C
		4	北上店	北上市鬼柳町荒高20-1	0197-67-4925	C
		5	水沢店(※名称変更:2024年4月~)	奥州市水沢区佐倉河字鎧田75	0197-23-2181	C
		6	一関インター店	一関市赤荻字鶴巻10-1	0191-25-2288	C
		7	釜石松倉店	釜石市甲子町第10地割160-17	0193-23-0171	C
		8	富古バイパス店	富古市長町2丁目1-29	0193-63-8541	C
		9	二戸バイパス店	二戸市米沢字長瀬77-1	0195-23-7746	C
		10	B.Pセンター	紫波郡紫波町平沢字境田114-1	019-671-1522	F
秋田スバル自動車株式会社	本社	1	本社・秋田店・G-PARK秋田	秋田市寺内三千刈315-1	018-823-7111	C
		2	能代店(※店舗閉鎖:~2024年3月まで)	能代市字昇平岳42-16	0185-52-1140	C
		3	大館店	大館市根下戸新町18-74	0186-42-1511	C
		4	秋田南店	秋田市仁井田字古川向5-3	018-839-0751	C
		5	大曲店	大仙市花館常保寺124-1	0187-63-0218	C
		6	横手店	横手市桑里二丁目8-14	0182-32-1241	C
山形スバル株式会社	本社	1	本社・荒瀬店	山形市荒瀬町2-1-88	023-624-1772	C
		2	米沢店	米沢市窪田町窪田251	0238-37-3131	C
		3	天童店・カースポット天童・部品センター	天童市松城町1-12	023-616-6055	C
		4	鶴岡店	鶴岡市西新斎町8-20	0235-22-7911	C
		5	酒田店(※名称変更:2023年10月~)	酒田市両羽町7-3	0234-22-7811	C
福島スバル自動車株式会社	本社	1	本社・郡山店・カースポット郡山	郡山市南一丁目70	024-945-1341	C
		2	郡山西店	郡山市喜久田町字松ヶ作16-151	024-959-3658	C
		3	須賀川店	須賀川市山寺道20-1	0248-75-1103	C
		4	田村店(※店舗閉鎖:~2023年9月まで)	田村市船引町船引字源次郎120	0247-82-0553	C
		5	福島店・BPセンター(※名称変更:2024年4月~)	福島市太平寺字東の内1-6	024-546-1336	D
		6	福島北店	福島市本内字上台27-4	024-553-0136	C
		7	いわき店	いわき市内郷御台境町新町前5-2	0246-24-0101	C
		8	いわき南店	いわき市鹿島町飯田字八合3-1	0246-58-7787	C
		9	カースポットいわき	いわき市内郷小島町天の田17-1	0246-26-5307	B
		10	白河店	西白河郡西郷村字石塚南5-2	0248-22-6631	C
		11	相馬店	南相馬市原町区本陣前1-59	0244-22-2147	C
		12	会津店	会津若松市町北町大字上荒久田字村北99	0242-37-1137	C

組織区分の意味

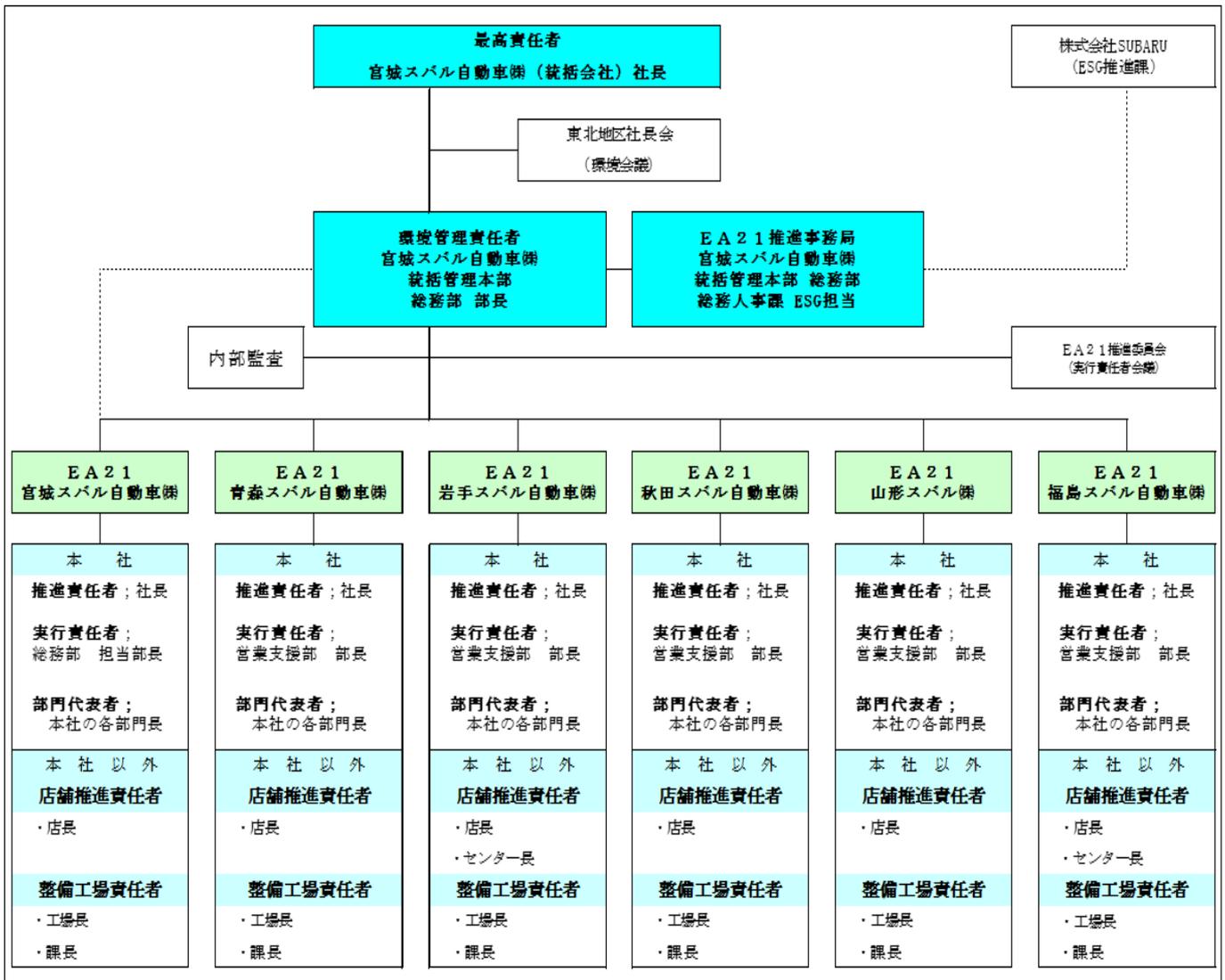
- A オフィス業務(事務所業務)
- B オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)
- C オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務
- D オフィス業務+自動車販売(新車、中古車)+整備業務+钣金塗装
- E オフィス業務+整備業務
- F オフィス業務+钣金塗装

## (2) 対象範囲

### エコアクション 21 認証・登録範囲

対象組織	東北地区スバルグループ全事業所
対象活動	新車及び中古車の販売、自動車の整備、钣金塗装、自動車部品／用品の販売、損害保険代理店業務等
認証番号	0005811

## 3. EA21 推進組織図 (※2024年4月1日 時点)





### 東北地区スバルグループ 環境経営方針

#### 《基本理念》

東北地区スバルグループは、スバル車を通じて “お客様のその先の未来が豊かなもの” となるよう、一人ひとりに寄り添い質の高いサービスと付加価値を提供していきます。

その上で欠かせない、“従業員とご家族の心身の健康” に着目し、安心して働ける環境整備、持続的成長のための基盤構築を図り、グループ全体の企業価値向上に取り組みます。

また、地域社会との調和を大切に環境保全への貢献も積極的に取り組み社会的責任を果たすと共に、「スバルに関わる全ての人々から愛される企業」を目指します。

#### 《基本方針》

この理念のもと、当グループ各社が行う自動車及び部品の販売、整備、修理、保険等々の業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を全従業員と共に推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当グループ各社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 環境保全の重要項目に対して、環境目標を定め取組み、毎年見直しを行います。
5. この環境方針を全従業員に周知し、教育活動を推進します。

宣言 平成22年3月1日  
 改定 令和 2年4月1日  
 改定 令和 3年4月1日  
 改定 令和 4年4月1日  
 改定 令和 5年4月1日  
 改定 令和 6年4月1日

東北地区スバルグループ  
統括会社

宮城スバル自動車株式会社 代表取締役 小笠原 巧

事業会社

青森スバル自動車株式会社 代表取締役 伊藤 信介

岩手スバル自動車株式会社 代表取締役 間野 英雄

秋田スバル自動車株式会社 代表取締役 伊藤 信介

山形スバル株式会社 代表取締役 岡崎 浩一

福島スバル自動車株式会社 代表取締役 岡崎 浩一

## 5. 環境経営目標及び計画内容



### (1) 中期計画

東北地区スバルグループ（以下「当グループ」）の中期計画は、2022年度実績を基準に2023年度は1%削減、2024年度は2%削減、2025年度は3%削減に取り組みます。また、当グループは脱炭素社会に貢献するため、2023年度より東北自然由来のCO<sub>2</sub>フリー電力30%を導入し、2022年度実績よりCO<sub>2</sub>排出量の18%削減を目指します。企業の社会的責任を果たすため、非連続かつ急速に変化する環境関連課題に応じて随時見直していきます。

### 東北地区スバルグループ 中期計画（3ヶ年）

項目	単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度-1%)	2024年度目標 (2022年度-2%)	2025年度目標 (2022年度-3%)	
電気使用量	kWh	5,060,270	5,009,667	4,959,065	4,908,462	
燃料使用量	ガソリン	L	395,086	391,135	387,184	383,233
	灯油	L	195,431	193,477	191,522	189,568
	軽油	L	104,840	103,792	102,743	101,695
	LPG	kg	39,075	38,684	38,294	37,903
	都市ガス	m <sup>3</sup>	29,849	29,551	29,252	28,954
紙使用量	kg	38,934	38,545	38,155	37,766	
水使用量	m <sup>3</sup>	38,872	38,483	38,095	37,706	
産業廃棄物排出量	廃プラ	kg	65,118	64,467	63,816	63,164
	廃アルカリ	kg	9,250	9,158	9,065	8,973
	金属くず	kg	149,650	148,154	146,657	145,161
	汚泥	kg	160,785	159,177	157,570	155,961
	エレメント	kg	10,665	10,558	10,451	10,345
項目	単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度-1.6%)	2024年度目標 (2022年度-1.7%)	2025年度目標 (2022年度-1.8%)	
CO <sub>2</sub> 排出量 ※1	Kg-CO <sub>2</sub>	4,172,178	3,504,630	3,462,908	3,421,186	
項目	単位	2022年度実績	2023年度目標 (2022年度-1%)	2024年度目標 (2022年度-2%)	2025年度目標 (2022年度-3%)	
化学物質 (宮城・青森・岩手)	トルエン	kg	366.00	362.34	358.68	355.02
	キシレン	kg	24.42	24.18	23.93	23.69
	酢酸ブチル	kg	683.63	676.79	669.96	663.12
	酢酸エチル	kg	150.60	149.09	147.59	146.08
	MIBK	kg	16.50	16.34	16.17	16.01
項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
車検付き点検パック加入率	%	88.2	90	90	90	
SAL 加入率	%	87	90	90	90	
項目	単位	2022年度実績	2023年度目標	2024年度目標	2025年度目標	
EV車拡販 ※2	構成比率	0.5%	0.6%	0.8%	1%	

※1 CO<sub>2</sub>排出量については、2023年4月より当グループでCO<sub>2</sub>フリー電力30%を導入しました。

当グループ全体のエネルギー構成比から算出した目標としています。

※2 当グループで2022年度全車種販売台数の構成比を基に、EV車拡販比率に対して2025年度1%を目指し取り組みます。

## 6. 2023年度の取り組み



東北地区スバルグループ（以下「当グループ」）は、商品である自動車から排出されるCO<sub>2</sub>を削減するため、燃費性能が向上している新型車販売はもちろんのこと、BEV<sup>※1</sup>の拡販を着実に推し進めることが重要であると考えます。一方で販売した商品の使用による排出量が大半を占めており、当グループの事業活動による排出源である電力や燃料使用による排出量は全体から見るとわずかともいえます。しかし、当グループ自らが率先して排出源に係るCO<sub>2</sub>削減に取り組むことは、グループ全体の成長に繋がるものと考え、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて、再生可能エネルギーの利用や高効率な設備・装置への更新により、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいます。

※1 BEV（Battery Electric Vehicle）：電気自動車

項目		単位	2023年度目標	2023年度実績	実績の評価
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	3,504,630	3,556,370	×
電気使用量		kWh	5,009,667	3,803,354	○
燃料使用量	ガソリン	L	391,136	352,967	○
	灯油	L	193,477	182,282	○
	軽油	L	103,792	92,075	○
	LPG	kg	38,685	42,100	×
	都市ガス	m <sup>3</sup>	29,551	27,799	○
紙使用量		kg	38,545	37,433	○
水使用量（=排出量）		m <sup>3</sup>	38,483	36,151	○
産業廃棄物排出量	廃布	kg	64,467	60,501	○
	廃酸 / 廃アルカリ	kg	9,158	8,336	○
	金属くず	kg	148,153	141,545	○
	汚泥	kg	159,178	179,125	×
	エレメント	kg	10,559	9,014	○
化学物質使用量	トルエン	kg	362.0	269.9	○
	キシレン	kg	24.2	11.1	○
	酢酸ブチル	kg	676.0	578.1	○
	酢酸エチル	kg	149.1	126.3	○
	MIBK	kg	16.3	7.8	○
製品・サービスの環境取組	新車検付点検バック率	%	90.0	73.5	×
	安心保証ロング中古車契約時付保率	%	90.0	87.0	×
	EV車拡販構成比率		0.60	0.65	○

## (1) CO<sub>2</sub>排出量の削減



東北地区スバルグループで事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出源は、電力・燃料・ガスの使用です。また、構成比において半分以上が電力使用しているためCO<sub>2</sub>排出に繋がっており、2023年4月から高電圧においてCO<sub>2</sub>フリー電力30%を導入し大幅な削減に取り組みました。

### ■ 2023年度における当グループの実行施策を図1に示します。

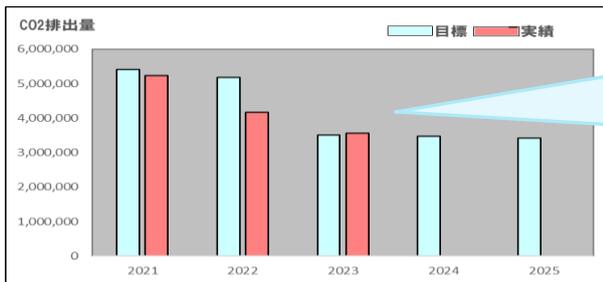
図1. 具体的な取り組み

#### ◆ CO<sub>2</sub>排出量削減に係る環境活動

- 電気使用量の削減
- 燃料使用量の削減
- ガス使用量の削減
- 業務の棚卸や効率化に向けた取り組み実施

### ■ 各年度におけるCO<sub>2</sub>排出量の目標と実績を図2に示します。

図2. CO<sub>2</sub>排出量の目標と推移



2021年度は約 192 t 削減  
 2022年度は約 1,000 t 削減  
 2023年度は約 616 t 削減  
 直近3年間で 約 1,808 t 削減

### ■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図3に示します。

図3. 二酸化炭素排出量 (2023年度取組結果)

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	目標	917,584	633,009	617,355	348,665	391,383	3,504,630
	実績	941,400	627,724	642,532	356,781	388,517	3,556,370
	実績の評価	×	○	×	×	○	×

## 〔 評価及び次年度の対策 〕

図3より、2023年度は目標未達という結果になりました。一方で、図2に示した推移にある通り、着実に削減しているなかで当グループは脱炭素社会に貢献するため、2023年度より東北自然由来のCO<sub>2</sub>フリー電力30%を導入し、2022年度実績に対してCO<sub>2</sub>排出量の16%削減(約668 t-CO<sub>2</sub>/年削減)に挑戦しました。結果は未達でしたがグループ全体で約616 t-CO<sub>2</sub>/年削減することができ、また、直近3年間で約1,808 t-CO<sub>2</sub>/年のCO<sub>2</sub>排出削減を行い、これはスギ約5,700本が年間吸収量に相当する削減効果となりました。次年度は環境活動を推進し、すべての使用電力をCO<sub>2</sub>フリーにすることで、大幅な削減を目指します。

## (2) 電気使用量の削減



東北地区スバルグループにおいて、ショールームやサービス工場にある様々な設備を動かすために電力を使用しています。また、サービス工場においては従業員の働く環境向上のため多くの店舗でエアコンを順次設置しています。

### ■ 2023 年度における当グループの実行施策を図 1 に示します。

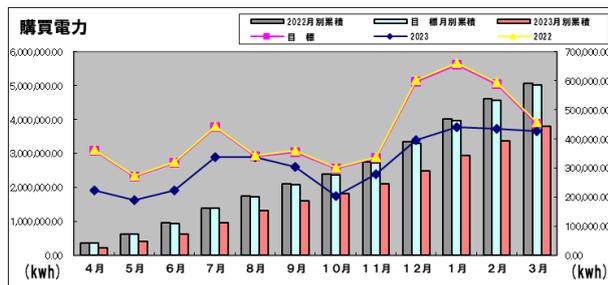
図 1. 具体的な取り組み

#### ◆ 電気使用量削減に係る環境活動

- 省エネ空調機器への切り替え
- 電力会社の節電キャンペーン等への参画
- 冷暖房の適正運用及びブラインドの積極的活用の実施
- 非稼働箇所の消灯徹底
- 人材・技術教育による高効率の実施

### ■ 電気使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 電気使用量の目標と推移



### ■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図 3 に示します。

図 3. 電気使用量

- 宮城スバル 1店舗 (移転設備拡大)
- 青森スバル 4店舗 (エアコン追加 1、洗濯機更新 1、電動シャッター新設 2)
- 岩手スバル 2店舗 (電動シャッター新設)
- 秋田スバル 1店舗 (空調機器更新、電動シャッター新設)
- 山形スバル 2店舗 (本立替、電動シャッター新設)
- 福島スバル 2店舗 (エアコン 4 台改修 1、空調更新 1)

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計	
電気使用量 kwh	目標	1,672,408	602,616	811,691	418,785	523,403	980,764	5,009,667
	実績	1,766,163	627,862	894,391	427,425	551,555	968,930	5,236,326
	実績の評価	×	×	×	×	×	○	×

注) 図 3 においては、CO<sub>2</sub>フリー 30%も含む総電力使用量で評価しています。

注) CO<sub>2</sub>排出係数 0.488 kg-CO<sub>2</sub>/kwh

## 〔 評価及び次年度の対策 〕

図 3 より、2023 年度は目標未達という結果になりました。当グループではコロナ禍からの業務回復に伴い、全体的に使用量が増えている傾向に重ね、働く環境向上への設備の増強が要因となり未達となりました。次年度も環境活動を推進し、目標達成及び大幅な CO<sub>2</sub>削減を目指します。

### (3) 燃料使用量の削減



東北地区スバルグループでは、社用車や代車にガソリン・軽油、給湯や暖房等にLPG・都市ガスを使用しています。

■ 2023年度における当グループの実行施策を図1に示します。

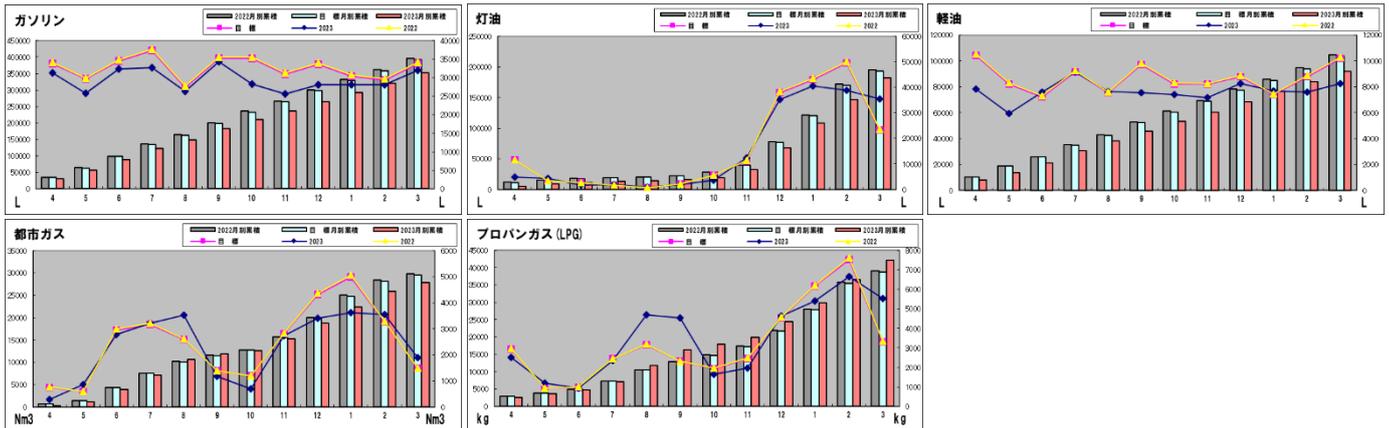
図1. 具体的な取り組み

◆ 燃料使用量削減に係る環境活動

- 来店型業務への取り組み
- 長時間のアイドリング禁止／エコドライブの再徹底
- Web会議の活用
- 暖房の運用ルール徹底

■ 燃料使用量の目標と実績を図2に示します。

図2. 燃料使用量の目標と推移



■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図3に示します。

図3. 燃料使用量

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計
ガソリン ℓ	目 標	75,091	84,000	72,845	47,019	51,842	60,339
	実 績	76,197	68,447	62,097	40,074	48,856	57,296
	実績の評価	×	○	○	○	○	○
灯油 ℓ	目 標	29,757	68,263	45,713	19,378	18,594	11,771
	実 績	30,752	59,353	44,203	16,635	18,363	12,976
	実績の評価	×	○	○	○	○	×
軽油 ℓ	目 標	23,906	16,706	24,379	9,562	20,925	8,315
	実 績	24,877	13,313	21,301	7,239	16,469	8,877
	実績の評価	×	○	○	○	○	×
LPG kg	目 標	1,972	20,547	3,212	12,324	127	502
	実 績	1,680	23,371	2,243	14,199	130	476
	実績の評価	○	×	○	×	×	○
都市ガス m <sup>3</sup>	目 標					41	29,510
	実 績					40	27,759
	実績の評価					○	○

〔 評価及び次年度の対策 〕

図3より、2023年度はLPG以外の項目について目標達成という結果となりました。LPGについては暖房関連で冬季使用分が影響しました。次年度以降も目標を意識して燃料使用量削減を目指します。

## (4) 紙・水使用量の削減



東北地区スバルグループでは、お客様に提示するため提案・注文書などで紙を使用。また、サービス業務で多くの水を使用しています。

### ■ 2023 年度における当グループの実行施策を図 1 に示します。

図 1. 具体的な取り組み

#### ◆ 紙使用量削減に係る環境活動

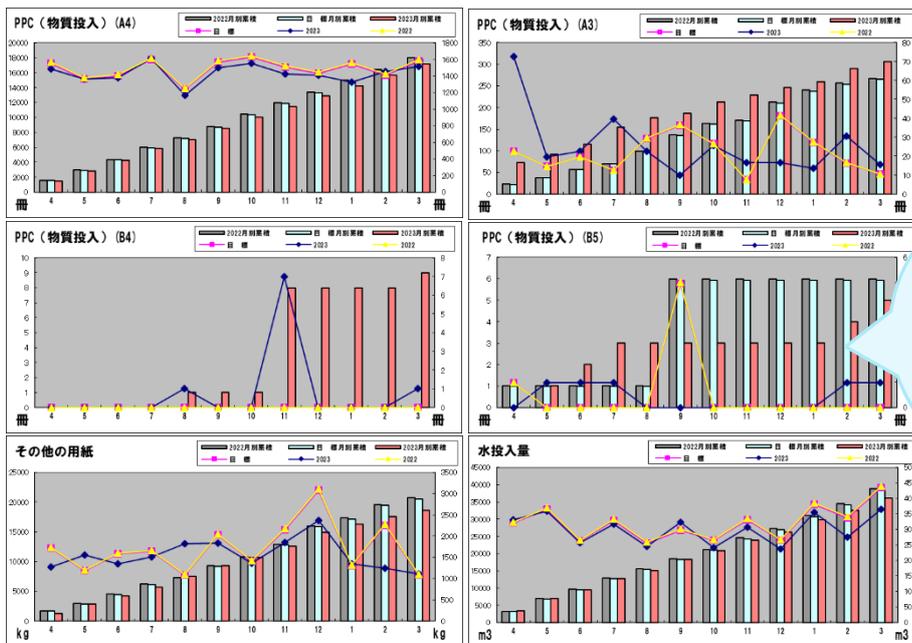
- ペーパーレス化推進の取り組み
- 両面・裏紙等の再利用の徹底
- データ保管への移行
- 使用量データによるPDCAの徹底

#### ◆ 水道水使用量削減に係る環境活動

- オフィス・工場の節水活動の徹底
- 定期的な簡易漏水点検の実施
- 使用量データによるPDCAの徹底

### ■ 紙・水使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 紙・水使用量の目標と推移



紙：事業活動における排出の多くがA4コピー紙  
水：事業活動における排出の多くが洗車機使用

### ■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図 3 に示します。

図 3. 紙・水使用量

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計
紙使用量 kg	目標	10,106	5,421	6,140	4,104	5,075	38,545
	実績	9,716	5,471	5,613	4,257	4,922	37,433
	実績の評価	○	×	○	×	○	○
水(投入) m <sup>3</sup>	目標	10,437	8,063	6,592	2,897	3,609	38,483
	実績	10,517	6,589	6,196	2,677	3,478	36,151
	実績の評価	×	○	○	○	○	○

### 〔 評価及び次年度の対策 〕

図 3 より、2023 年度は紙・水使用量について目標達成という結果となりました。図 2 より、当グループでの紙使用量の多くが A4 サイズのコピー用紙です。また、水使用量の多くも洗車機によるもので、次年度以降も注視しながら使用量削減を目指します。

## (5) 産業廃棄物排出量の削減



東北地区スバルグループの事業活動において排出された産業廃棄物は、各産業廃棄物処理業者に委託することで、一部ではあるが様々な形で再利用されています。

■ 2023 年度における当グループの実行施策を図 1 に示します。

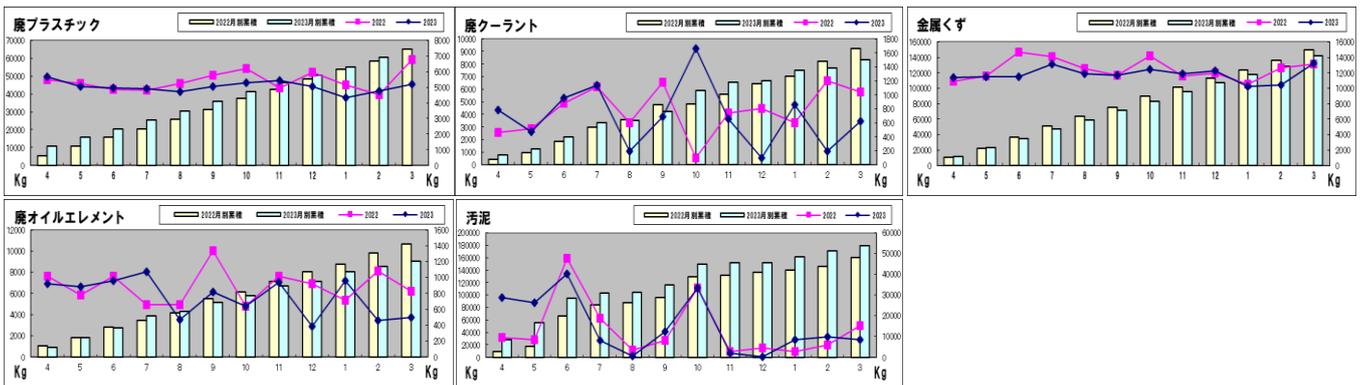
図 1. 具体的な取り組み

◆ 産業廃棄物排出量削減に係る環境活動

- 排出量削減取組・再資源エネルギーの仕分け徹底
- マニフェストの適切な運用の徹底
- 排出量データによるPDCAの徹底（排出量の原単位評価）

■ 産業廃棄物使用量の目標と実績を図 2 に示します。

図 2. 産業廃棄物使用量の目標と推移



■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図 3 に示します。

図 3. 産業廃棄物排出量 ※廃油は全量リサイクルのため除く

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計	
廃プラ kg	目標	4,713	9,662	10,732	5,541	24,176	9,643	64,467
	実績	4,950	11,156	9,955	6,154	17,741	10,545	60,501
	実績の評価	×	×	○	×	○	×	○
廃酸/廃アルカリ kg	目標	2,534	594	1,178	1,871	1,445	1,535	9,158
	実績	2,740	1,180	400	620	796	2,600	8,336
	実績の評価	×	×	○	○	○	×	○
金属くず kg	目標	24,473	34,517	19,251	24,729	15,525	29,659	148,153
	実績	24,570	30,015	18,755	24,102	16,976	27,127	141,545
	実績の評価	×	○	○	○	×	○	○
汚泥 kg	目標	42,214	9,385	19,166	44,312	10,423	33,677	159,178
	実績	41,281	19,250	22,341	45,450	16,355	34,448	179,125
	実績の評価	○	×	×	×	×	×	×
元素ト kg	目標	4,592			3,980	1,987		10,559
	実績	4,536			3,060	1,418		9,014
	実績の評価	○			○	○		○

### 〔 評価及び次年度の対策 〕

図 3 より、2023 年度は汚泥排出量以外の項目については目標達成という結果となりました。汚泥については敷地外周の清掃のため排出量増加分が影響しました。次年度以降も適切な管理・運用を行いながら使用量削減を目指します。

## (6) 化学物質使用量の削減



東北地区スバルグループで取り扱っている化学物質のうち、PRTR法に該当するものを含め5種類を使用しています。

■ 2023年度における当グループの実行施策を図1に示します。

図1. 具体的な取り組み

◆ 化学物質使用量削減に係る環境活動

- 水溶性塗料の活用
- 対象化学物質使用の削減
- 在庫管理の徹底および教育の実施

■ 各社の取り組み実績とグループ実績を図2に示します。

図2. 化学物質使用量

項目 (単位)	宮城スバル	青森スバル	岩手スバル	秋田スバル	山形スバル	福島スバル	6社合計
トルエン kg	目 標	15.7	164.8	181.8			362.34
	実 績	17.8	111.7	140.4			269.90
	実績の評価	×	○	○			○
キシレン kg	目 標	0.1	23.8	0.3			24.18
	実 績	0.4	10.6	0.1			11.08
	実績の評価	×	○	○			○
酢酸ブチル kg	目 標	313.5	131.2	232.1			676.80
	実 績	299.9	112.2	166.0			578.06
	実績の評価	○	○	○			○
酢酸エチル kg	目 標	67.3	77.4	4.4			149.10
	実 績	65.0	61.3	0.0			126.30
	実績の評価	○	○	○			○
MIBK kg	目 標	0.0	16.3	0.0			16.34
	実 績	0.0	7.8	0.0			7.80
	実績の評価	○	○	○			○

〔 評価及び次年度の対策 〕

図2より、2023年度は在庫台数の影響があったが全体で目標達成という結果になりました。次年度以降も使用量削減を目指します。

## (7) 環境負荷低減に資する商品販売促進

東北地区スバルグループでは、車のメンテナンスを適正に実施できる商品を推進販売しています。

■ 2023年度における当グループの実行施策を図1に示します。

■ グループ実績を図2に示します。

図1. 具体的な取り組み

◆ 環境負荷低減に係る環境活動

- 環境負荷商品の販売と実施
- 従業員教育の実施
- 進捗データによるPDCAの徹底

図2. グループ全体結果

項目 (単位)	6社合計	
車検付点検バック 新車契約時の 付保率 %	目 標	90.0
	実 績	73.5
	実績の評価	×
スバルあんしん 保証ロング 中古車契約時の 付保率 %	目 標	90.0
	実 績	87.0
	実績の評価	×

〔 評価及び次年度の対策 〕

図2より、2023年度は目標未達という結果になりました。商品高額の影響はあるが、次年度以降も付保率90%を目指します。

## 7. SUBARU の価値創造の歩み



SUBARU はお客様の人生に寄り添うクルマづくりをしてきました。そのクルマたちが、お客様との思い出をつくり、米国ではお客様の心の中 Love という言葉が生まれています。その Love をさらに広げたいという思いから、米国販売子会社である SOA では、全米の販売店と一体となった Love Promise という活動として実を結んでいます。SUBARU の商品を核として、お客様、販売店、SUBARU、そして地域社会の人と人を強固につなげるこの取り組みこそが「SUBARU の社会と未来への価値貢献」であり、これを守り、さらに取り組みの輪を広げていきます。このような取り組みを広げていこうという想いは、この先の大変革期や電動化時代となっても決して変わるものではありません。お客様、販売店、そして私たち SUBARU のつながりの中心にある「商品」において、その価値をさらに進化させていきます。

母からある日電話が。「フォレスター、何色が似合う? オプションは?」  
うきうきした声で楽しみが伝わってきた。  
フォレスターは今では家族の一員、  
両親を守ってくれている。

納車してまだ1年弱ですが、  
四季折々様々な場所へ妻と出かけ、  
その時に欠かせない  
相棒となりました。  
暇さえあれば運転したくなる!  
将来子どもにもこの楽しさを  
感じてほしいな〜って思ったり (笑)

10万キロに到達しました。  
この車との日々が本当に大切に、  
思い出がたくさん詰まっています。  
労わりながらも、まだまだ  
乗り続けて行きたいと思います!

今年の結婚記念日は、  
妻を連れ出しドライブに出かけた。  
日常を離れ遠くの世界を目指す。  
そこで地元で上がった海の幸を食べ、  
浜辺を歩いた。  
今度は妻を何処へ連れて行こう。

以前に乗っていた車は荷室が狭く、  
できる事が限られていましたが、  
XVならキャンプや  
旅先でサイクリングなんでも  
こなせるので、休日の過ごし方が  
豊かになりました。

インドアな趣味ばかりの私でしたが、  
今では毎週末、この車と豊かな自然を  
見に行くことがわたしの1番の楽しみです。  
私の人生も豊かにしてくれる  
最高のクルマです。

時代	～1950年	1950年代	1960～1970年代	1980～	1990年代	2000年以降	
時代背景に基づくお客様のニーズ		<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後復興</li> <li>国民車構想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度経済成長</li> <li>モータリゼーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジャー (スキー) ブーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モータースポーツブーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーマンショック</li> <li>安全意識の高まり</li> <li>環境意識の高まり</li> </ul>	
SUBARUがクルマづくりを通して提供してきた価値		<ul style="list-style-type: none"> <li>移動したい</li> <li>手の届く価格のクルマが欲しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候を気にせずにクルマに乗りたい</li> <li>マイカーを家族で楽しみたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジャーを仲間と楽しみたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルマにこだわりたい</li> <li>自分らしさを実現したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルマと関わるすべての時間を安全に過ごしたい</li> <li>社会や環境により良いことをしたい</li> </ul>	
安全思想を体現してきた技術			<ul style="list-style-type: none"> <li>視界設計 0次安全</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>1965年 衝突試験開始 衝突安全</li> <li>1966年 水平対向エンジン 走行安全</li> <li>1972年 4WD / AWD 走行安全</li> <li>1989年 ステレオカメラ開発開始 歩行安全</li> <li>1999年 ADA (アクティブ・トラフィック・アシスト) 歩行安全</li> <li>2008年 アイサイト 歩行安全</li> <li>2016年 スリットロード・バルプラットフォーム 歩行安全 衝突安全</li> <li>2020年 SUBARU STARLINK つながる安全</li> </ul>	
商品など	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業前史 航空機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1958年 スバル360</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1964年 スバル1000</li> <li>1972年 レオーネ4WD エステートバン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1989年 レガシィ</li> <li>1988年 スバルテクニカインターナショナル(株) 設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1992年 インプレッサ</li> <li>1995年 グランドワゴン</li> <li>1997年 フォレスター</li> <li>1997年 WRC (世界ラリー選手権) 3連覇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年 SUBARU XV</li> <li>2012年 SUBARU BRZ</li> <li>2014年 レヴォーグ</li> <li>2008年～ ニュルブルクリンク 24時間耐久レース出場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年 ソルテラ</li> <li>2021年～ スーパー耐久シリーズ参戦</li> </ul>

\*主に日本市場について記載しています。

## 8. CSR



私たちは、「笑顔をつくる会社」をありたい姿として掲げています。その実現に向け、CSR 重点 6 領域の考え方を取り入れ、SUBARU グローバルサステナビリティ方針に基づいた取り組みを行うことで、企業としての社会的責任を果たし、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様へ「安心と楽しさ」を提供していきます。そして、SUBARU グループは真のグローバル企業として従業員一人ひとりが成長の原動力となり、持続的な成長を目指すとともに、愉しく持続可能な社会の実現に貢献していきます。

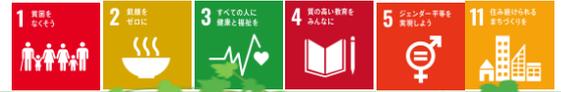
### SUBARUグローバルサステナビリティ方針

私たちSUBARUグループは、人・社会・環境の調和を目指し、

1. 事業を通じて、地球環境の保護を含む様々な社会課題の解決と、持続可能な社会の実現に貢献します。
2. 高品質と個性を大切に、先進の技術で、SUBARUならではの価値を提供し続け、SUBARUグループに関わるすべての人々の人生を豊かにしていきます。
3. 国際社会における良き企業市民として、人権および多様な価値観・個性を尊重し、すべてのステークホルダーに誠実に向き合います。
4. 従業員一人ひとりが、安全に安心して働くことができ、かつ働きがいを感じられるよう職場環境を向上させます。
5. 国際ルールや各国・地域の法令を遵守するとともに、その文化・慣習等を尊重し、公正で透明な企業統治を行います。
6. ステークホルダーとの対話を経営に活かすとともに、適時かつ適切に企業情報を開示します。



# (1) 持続可能な企業を目指して



## ■ 東北地区スバルグループ CSR 活動一覧 (2023年4月~2024年3月)

4月	盲導犬募金への寄附活動/店舗近隣清掃活動実施/こども110番追加登録
5月	消防関連法講習会実施/トルコ・シリア募金活動/環境活動巡回実施
6月	環境局講習会参加/日本ライフセービング協会支援活動/みどりの基金へ寄付
7月	ジョブキッズ体験受入/男子バスケットチーム支援/地域展示会参加/ラジオ番組通じ環境活動PR/青年会議所大会協賛
8月	ライフセービング協会取材及びビーチクリーン活動実施/小学生向け交通安全イベント実施/みどりの基金表彰式/植樹活動協定(県・市)/ジョブキッズ体験受入/脱炭素フェス出展/駅伝大会協賛
9月	省エネ診断実施/職業体験会参加/自動車点検ふれあいフェス参加/店舗近隣清掃活動実施/環境教育実施/ラグビー-振興会協賛
10月	店舗近隣清掃活動実施/モーターフェス協賛
11月	EA21フォローアップセミナー参加/店舗責任者向け研修実施/女子バスケットチーム支援/献血活動支援/子供エコドライブ教室支援
12月	交通安全功労団体表彰/盲導犬募金への寄附活動
1月	献血活動支援/地域展示会参加/能登半島募金への寄附活動
2月	環境オンライン研修参加/CO2フリー100%導入説明会/環境会議開催/地域展示会参加
3月	産業廃棄物業者視察/地域展示会参加



## (2) 認証取得



### ■ 健康経営優良法人認定制度 (経済産業省)

健康経営優良法人認定制度とは、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的に、日本健康会議が認定する顕彰制度です。



### ■ スポーツエールカンパニー (スポーツ庁)

スポーツ庁では、「働き盛り世代」のスポーツ実施を促進し、スポーツに対する社会的機運の醸成を図ることを目的として、従業員の健康増進のためにスポーツ活動の促進に積極的に取り組む企業を「スポーツエールカンパニー」として認定しています。



### ■ TÜV (テュフ) 認証

TÜV (テュフ) 認証とは、機械・電子機器や医療製品などあらゆる製品に対して、安全性や機能の有効性が認められたことを認証するものです。

(ゴールドカテゴリーのスチール材料を対象とした钣金塗装修理工場として認証取得)



### ■ 産業廃棄物適正管理能力検定 (環境省)

産業廃棄物適正管理能力検定とは、企業で産業廃棄物管理に携わる担当者を対象に、廃棄物処理法をはじめとする産業廃棄物管理を行う上での必須知識を出題する検定試験を行い、担当者として必要な力量の習得の程度を判定する検定制度です。当グループでは、管理者、所属長、サービス工場長、アシスタントスタッフを中心に200名以上が「産業廃棄物適正処理管理士」の資格取得しています。



### (3) 環境関連法規等の遵守状況の確認、訴訟の有無



#### ■ 適用される主な環境法規等

〈 主な適用法規 〉	〈 要求事項 〉	〈 遵守状況 〉
省エネ法	エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換（努力義務）	○
建築物省エネ法	基準適合の届出	○
	省エネ基準の遵守	○
水質汚濁防止法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
	事故時の報告	○
浄化槽法	浄化槽設置、使用開始等の届出	○
	定期の清掃・点検・検査の実施	○
下水道法	排水設備の設置	○
	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
大気汚染防止法	排出基準の遵守	○
フロン排出抑制法	設備の使用環境保全	○
	簡易点検・定期点検	○
騒音規制法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
振動規制法	特定施設の届出	○
	規制基準の遵守	○
化管法（PRTR 法）	排出量及び移動量の把握	○
自動車リサイクル法	業者登録	○
	使用済自動車の適正処理	○
家電リサイクル法	廃棄基準の遵守	○
悪臭防止法	規制基準の遵守	○
各県市町村環境保全条例 ※様式 10-②環境関連条例等一覧表（内部資料）を参照	公害防止担当者、事故（発生時）の届出等	○

#### ■ 違反、訴訟等の有無

東北地区スバルグループにおける環境関連法規制の違反・訴訟等はありません。また、関係当局からの違反・訴訟等に関する指摘は過去3年間ありません。

## (4) コンプライアンス関連

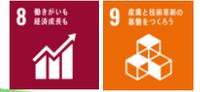


東北地区スバルグループでは、2023年度にかけて法令に沿って適正に産業廃棄物処理が実施されているか、マニフェストが適正に管理運用されているかを確認するため、グループ全体で産業廃棄物処理業者の現地視察を行いました。

〈 会社名 〉	〈 産業廃棄物処分業者名 〉	〈 種類 〉	〈 遵守状況 〉
宮城スバル自動車（株）	有限会社 よろづや	廃プラ/廃タイヤ	○
	株式会社 中央特殊興業	汚泥	○
	株式会社 自然環境産業	汚泥	○
	株式会社 青南商事 仙台支店	廃プラ/金属くず	○
	全環衛生事業協同組合	汚泥	○
	志賀建設工業株式会社	汚泥	○
	細倉金属鋳業株式会社	廃バッテリー	○
	旭興産株式会社	汚泥（塗料カス混油水）	○
	東北油化工業株式会社	引火性廃油	○
青森スバル自動車（株）	有限会社 小山内タイヤ商会	廃タイヤ	○
岩手スバル自動車（株）	株式会社 有田屋	金属くず	○
	有限会社 県南クリーン	金属くず	○
秋田スバル自動車（株）	秋田協同清掃株式会社	廃プラ/汚泥	○
山形スバル（株）	株式会社 キヨスミ産研	廃プラ/金属くず	○
福島スバル自動車（株）	常光サービス株式会社	廃プラ/金属くず	○
	株式会社 トラスト環境	金属くず	○
	株式会社 クレハ環境	廃エレメント	○
	株式会社 高良	金属くず	○
	恵和興業株式会社	ガラスくず	○
	株式会社 青南商事 郡山支社	廃プラ/金属くず	○



## 9. 代表者による全体評価



### ■ 統括会社の環境活動計画実施状況及び環境目標達成状況

東北地区スバルグループでは、2023年度はCO2フリー電力の導入や設備投資（立替・工場A/C導入・工場環境改善）などを行い、環境パフォーマンス改善に取り組みました。一方で、環境関連法規類の整理と遵守を「組織力の強化」と位置づけ、問題点の是正及び予防記録票を通じて従業員の意識改革も積極的に行いました。2024年度はグループでライフセービング協会支援や「SUBARUの森」植樹活動を通じて、従業員やお客様、ステークホルダーと一体感を持って活動することを目標に取り組んでいきます。

### ■ 代表者による評価

#### < 経営における課題 >

東北地区スバルグループでは緊急事態発生時の対応だけでなく、日々の企業活動において環境へ重大な影響を及ぼす様々なリスクに対し、リスク発生時のダメージを最小化するための「リスクマネジメントの実践」このことを経営の最重要課題の一つとして捉えています。

#### < 経営におけるチャンス >

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えており、東北に事業を展開する当グループは、国内外の情勢に素早く対応して、経営基盤の強靭化を図りながら、人的、社会的および経済的損失の最小化にこれまで以上に取り組んでいく必要があります。こうした環境のなか経営の持続性を確保し活動を行っていくうえで、当グループは2025年4月から6社統合します。

1社となることで業務効率の向上やスリム化を図り経営強化の推進とリスクに強い体質への変革に取り組み、更なる企業価値の向上を図ることが重要であると同時に経営におけるチャンスと捉えています。

以上





**SUBARU**